

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 四万十町立七里小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒786-0082
高知県高岡郡四万十町七里甲1214

E-mail : nanasato-e@kochinet.ed.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 27 名 女子 23 名 合計 50 名
 児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1. 国際理解教育

①国際交流地区民運動会（国際交流地区民運動会&ワールド屋台）

4月には高知大学の国際協力を目指す学生のサークル「国際茶屋」と「世界の厨房」そして七里小学校、七里小学校PTAが共催して国際交流・国際協力と同時に高知の地域にも目を向け田舎を元気にしようという目的で地区民運動会を行った。

②モンゴルの子どもたちにタオルのプレゼント（7月）

ジャイカの事業でモンゴルに視察研修に参加した教員からモンゴルの人々について話を聞き学習するなかで、モンゴルの子どもたちにジャイカの方たちと一緒にタオルをプレゼントしようということになり、家庭や地域の方にも協力を呼びかけた。段ボールいっぱいタオルを、モンゴルに帰国する高知大学等留学生を通じプレゼントした。

③高知大学留学生・学生との交流会

12月には、4月に交流を行った大学生や留学生たちとの交流会を行い、様々な国々の留学生たちとも交流を深めることができた。

④道徳教育

本校は道徳教育を研究の柱としている。そこで国際理解教育の視点も入れた道徳教育を実践している。例えば「サバンナの子どもたち」で子どもたちが家の仕事を当たり前を手伝っていることなど、他の国の暮らしなど学んでいる。

⑤その他

様々な学校行事の際に、写真等を用いて他の国々や地域の子どもたちの生活も学習してきた。例えば、環境教育の農業体験学習においても紛争による難民生活を余儀なくされている人々の暮らしから、自分の生まれ育った自然豊かな故郷で、作物を育てられることの喜びや、平和の大切さなど関連付けて学んでいる。また、収穫祭等の際には、ストリートチルドレンやマンホールチルドレンといった厳しい環境の中でもたくましく生きている子どもたちのことを学ぶことで、食物への感謝なども学んできた。

2. 環境教育・エネルギー

①お米作り

地域の方の田んぼをかりて、全校児童が田植えと稲刈りを体験してお米作りを行っている。講師には地域で農業を行っている保護者をお願いし、地域在住のJA女性部の方たちにもご協力いただいた。

②野菜作り

学校園に全校でサツマイモ作りをしている。また、各学年が児童の実態や教科等との関わりのある野菜作りを行った。

③収穫祭

収穫したお米や野菜を使って料理を作って収穫祭を行った。この時はお世話になった地域や保護者の方も招待して感謝の気持ちを伝えると共に収穫の喜びを味わうことができた。

④クリーン大作戦（校区の清掃活動）

地域の環境保全を進めることで、郷土を愛し地域を大切にしていこうとする気持ちを育成している。

⑤学校 CO₂削減コンテスト

環境活動支援センターえこらぼの行っている 2014 学校 CO₂削減コンテストに参加し、地球温暖化を防ぐために、CO₂を削減すべく、水や電気の使用量を減らそうという取り組みに挑戦した。

3. 防災教育・食育等

①高知県では南海トラフ地震に備えて防災教育にも取り組んでいるが、高知県学校安全プログラムに沿って年間5～6時間の防災学習を行うとともに、本年度は集中豪雨による洪水被害や土砂災害もあり、5・6年生では校区内のフィールドワーク等で災害の恐ろしさを学んだ。

②社会を生き抜く力として、豊かな心と健やかな体を育てるため、学校給食を核として、子どもたちの「食」に関する意識づけと、食生活の改善を推進するため、窪川小学校の栄養教諭による食育の授業を各学級学期に1回の食育の授業を行ってきた。
一例として、5・6年生の『MOTTAINAI』を考えようでは、「食料自給率が先進国最下位でありながら、世界一の残飯大国といわれているわが国の食糧事情と、世界では6秒に1人の子どもたちが餓死していることから、地球で生産される食糧で、世界中の人々が生きていくために自分たちが日々の生活の中で、どう生きていかねばならないか。」無駄をなくすことの必要性など学習した。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()